

軸となる取組・活動

【 規範意識の醸成（キャリア教育）】

義務教育卒業時に付けたい力

- 規範意識を身に付け、思いやりの心をもち、自主的に判断し行動できる
- 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行する態度
- 思いやりの心をもって人と接するとともに、互いの個性や立場を尊重する態度
- 法やきまりの意義を理解し、それらを守ることで集団生活の向上に努めようとする態度

学年または学年区分ごとにめざす姿

反対だと仲良くし、助け合える子 自分からすすんでがんばれる子	思いやりをもち、集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力して助け合える子	自分の思いをもち、相手の思いを受けとめ、希望と勇気をもってがんばれる子 法やきまりの意識を理解し、集団における自己の役割と責任を果たせる子	集団の一員としての自分の役割を認識し、友情を深め、自己の向上を図ろうとする態度と実践力を身に付ける	将来を展望しつつ、集団生活の中で、自律の精神をもって積極的に自他共に高めていくこうとする態度と実践力を身に付ける	自律と友愛の精神をさらに高め、社会の一員としての自覚をもって、真理を探求し、理想の実現を目指して、前向きに取り組もうとする態度と実践力を身に付ける
-----------------------------------	---------------------------------------	--	---	--	---

	小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
小学校の取組	行事や学級活動を通してみんなで協力することの喜びや楽しさを味わう。みそあじの取り組みを通して自分のことは自分でしようという心情を養う。 (安井小)	節度ある生活を送るために時間を守り、身だしなみを整え、周りの環境を整える。礼儀正しく人と接するために相手の顔を見て自分からあいさつをする。返事やお礼をはっきりと言う。	たてわり活動や委員会活動を通して、学校の仕事をすすんで行き、下級生や仲間に思いやりのあるコミュニケーションの方法を身に付ける。いろんな行事を通して学校のあこがれの存在になる。	中学生としての自覚をもち、新しい学校のルールを遵守する。生徒会活動に積極的に参加し、集団の一員として活動する。	チャレンジ体験や高校訪問事業を通して、将来展望を広げる。生徒会活動の中心学年として活躍できる場を設定する。	義務教育最終学年として、自覚と責任をもつて行動する。後輩の目標となるような先輩として学校生活での模範を示す。			
	学校生活に慣れることを第一に考え、学校探検で2年生が1年生を連れて学校紹介する活動をしている。給食や清掃活動など当番活動ができるように6年生が手助けをして、教えてあげるなど、細かく指導していく。 (山ノ内小)	友だちを意識し始める年齢であり、10才の壁がスムーズに越せるように、モノづくりの殿堂學習で将来への展望を広げる。2分の1成人式を行い、生まれてからこれまでの10年間をふり返り、自分を見つめられるようにする。	高学年としての自覚をもてるように、校内で大人の人には会った後に進んでいさつをする等、学校のルールを遵守する。委員会活動を通して、様々な場面で学校をよりよくする取り組みが自ら考え、行動できるようにする。ショイフル集会では見本となったり、たて割り活動では中心になって活躍できたりする場を設定する。						

四条ブロックの取組	誰にでも温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる自分でやらねばならない勉強や仕事をしっかりやろうとする心情を養う	困っている友だちに対して、思いやりの心をもって接しようとする態度を育てる勇気をもって行動することの大切さに気づき、よいと思ったことは積極的に行つていこうとする態度を養う	相手のことを思いやり、親切にしようとする心情を育てる自分でやろうと決めたことは、あきらめないで、工夫して粘り強くやり遂げようとする意欲を育てる	相手の気持ちになつて、互いに信頼し、励まし合って友情を深めていこうとする心情を育てる	誰に対しても思いやりの心をもち、常に相手の立場に立って物事を考え、優しく親切に接しようとする心情を育てる	利害や損得にとらわれず、誰に対しても温かく思いやりの心をもち、親切にしようとする心情を育てる	他人の人々に対し、思いやりの心をもって接していくこうとする、道徳的な態度を育てる	人は関わり合いの中で生きていることを感じ取り、感謝と思いやりの心をもって行動しようとする心	温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりの心をもって接しようとする態度を育てる
-----------	---	--	---	--	--	--	--	---	--

軸となる取組・活動 【 教科学習（算数・数学）】

軸となる取組・活動 【 教科学習（英語）】

義務教育卒業時に付けたい力

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能を総合的に活用し、積極的にコミュニケーションを図ろうとし、自らの考えを相手に伝えることができる力

学年または学年区分ごとにめざす姿

- ・小学校低学年・中学年においてはイギリッシュシャワーを通して、英語に慣れ親しむ
 - ・小学校高学年からは本格的に英語活動が始まるが、「聞くこと」「話すこと」においての素地を築く。
 - ・中学校段階では、「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」を明示することで、小学校における英語活動で育まれた素地の上に、これらの4つの技能を総合的に活用し、自らの考えを伝えるために積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

軸となる取組・活動【教科学習（国語）】